

# 登米ひまわり訪問看護ステーション

症 例 概 要    利用者氏名：70代    男性    要介護3

利用期間    ：2024年6月中旬    ～    現在に至る

経過：2023年より腰～下肢の疼痛あり。脊柱管狭窄症の手術を受けたが、2024年両下肢脱力で歩行困難、右手にも脱力あり。同年11月ALSの診断受け、ラジカット内服開始となる。リハビリと状態観察目的にて訪問看護開始。

## 内      容

脊柱管狭窄症の症状が出始めてからALSと診断されるまでに、かなりの時間を要しました。入院中にご本人・ご家族に病状の説明をした所、「なってしまったものは仕方がない。これから女房に迷惑をかけないように踏ん張りたいです」と涙されています。治療としてラジカットの内服が開始され、訪問看護によるリハビリと状態観察で介入しています。

看護では、週1回状態観察と幸せホルモンの取り組みもあり、有資格者によるアロママッサージ実施。マッサージ後は、下肢むくみ軽減され、とても気持ちが良いと前向きな発言が聞かれています。ラジカットの副作用と病状の進行で精神的に落ち込む事もありましたが、アロママッサージの効果や看護師との会話の中で、明るい気持ちに変化しています。

リハビリでは、週1回から開始され、ご本人の意欲もあり現在は週3回介入しています。徐々に病状の進行が見られ、筋力低下が進んできました。当初は「旅行に行けるかどうか自信がない」と言う発言が聞かれていましたが、「東京にいる娘や孫に会いたい」と言う気持ちが徐々に高まり、ご本人の子供達が企画を立ててくれました。リハビリで、福祉用具の選定をしながら車椅子での動作を確認。

2025年9月にコロナ罹患もありましたが、体調が整った為、10月中旬に奥さんや子供達の協力のもと、無事に東京に行くことが出来ました。遠方にいるお孫さん達も集まり、賑やかな時を過ごされました。

今回の旅行がご家族の交流の機会となり、ご利用者・ご家族がキラキラとした笑顔が見られた症例となりました。これからも愛情を持った親身な対応を心がけ、その人らしい人生が送れる様、他職種連携をしながら介入していきます。

関連職種

訪問看護師：アロママッサージ、状態観察

PT：筋力維持

福祉用具会社：福祉用具選定